



飯田山の頂上から見える熊本市街。正面の山は金峰山。手前に江津湖が広がります



山同士の背比べで流れた水が溜まったと伝わる、「白山神社」の裏手にある池



左から高木崇さんと次男の天晴ちゃん(2)、木村友紀菜さん、田口幸明さん、高木一誉くん

勝つはずがない」と軽くあしらうと、飯田山は「おれが絶対に高い」と言い張りました。そこで、互いの頂上に桶をかけ、有明海の水を流して、どちらが高いか決着をつけることに。しかし、水は飯田山へと流れ、軍配は金峰山へ。すっかり恥をかい飯田山は「もう高さのことは『言いださん(いわない)』と降参したことから「飯田山」という名前が付いたとき。

白山神社横の池には、背比べで流れ落ちた水が溜まったと伝わり、不思議なことに一度も枯れたことがないそうです。ちなみに民話にはもう一つ、この背比べでこぼれた桶の水が江津湖になった、という言い伝

えも残っています。

「やまのせいくらべ」の物語を思い浮かべながら、飯田山の頂上から広がる風景を眺めると、民話の面白さがより増してきます。

道場で汗を流し 合気道の精神に学ぶ

飯田地区にある「合気道誠練会・益城道場」の道場で、道着姿で稽古に励んでいる人たちがいました。熱心に指導をしていたのは、道場主の田口幸明さん(67)です。田口さんは合気道7段で、2年前に道場を開きました。

「合気道は護身の術を身につけるだけでなく、無理なく体力がつき、自然と柔軟性が養われます。お子さんや、83歳の男性もいらっしやいます」と田口さん。

近所に住み、飯野小学校に通う木村友紀菜さん(10)も入門者の一人。受け身の技を軽やかにこなす姿は凛として、心身が健やかに鍛えられているようです。「息子と一緒に汗を流しています。私の場合、ダイエツトが目的です」とおおらかに笑うのは、高木崇さん(42)です。長男の一誉くん(9)も、小さな体で大きな体格の崇さん相手に、勇ましい技を披露してくれました。



第二保育所さくら組の5歳の園児たち。後列の右は勝本園長、左はさくら組の担任

元気いっぱい!! 第二保育所の園児たち

砥川地区を歩いていると、園庭を走り回る園児たちの姿が見えます。ここには、飯野地区や広安地区から通う67人の園児たちがいます。どの子も元気いっぱいです。

今回、ご紹介するのはさくら組のみんです。かわいい笑顔、おちゃめなポーズ、中には変顔が得意な園児もいます。

「以前は、老人ホームを訪問したりなど、ご高齢の方々のふれあいを大切にしていたのですが、残念ながら現在はコロナ禍で叶いませんと話すのは、勝本美樹園長(58)です。

同園の保育方針は「すなおで、明るく、たくましく」です。そういう人に育ってほしいなという願いが込められています。